

メタルドゥ チタン加工処理能力増強でさらに高付加価値路線を追求

2017.12.05 08:27

B!

いいね！ 0

Tweet

G+



大手レアメタルリサイクラーのメタルドゥ（本社：大阪府大阪市、山頼敏彦社長）は最近4年間でチタン、スーパーアロイの加工処理能力を増強させる「高付加価値戦略」を進めているが、このたび大阪市此花区の1st物流センターにチタン加工設備（破碎機）をあらたに導入した。

今回導入したチタン破碎機は数十トン/月の加工処理能力をもっている。この破碎機によって作られる原料は主にスポンジチタンの代替として供給可能なものであり、国内外のユーザーに販売を予定している。メタルドゥで取り扱うチタンは加工品、二級品、フェロチタン向けに販売しており、月間平均で100トンの扱い量。ここにNEWマシン（破碎機）によるチタン原料が数十トン加わることになる。同社のチタンスクラップは工場発生品などが多く、解体系は比較的少ない。

1st物流センターではこのチタン以外に、スーパーアロイ、電池系（LiB、NI-MH）、タンタル系を主に扱っている。神戸の2ndはニッケル、コバルト系が中心。1stは山頼社長肝煎りでリサイクルプロセッサーマタルドゥを打ち出すためのプロセッシング工場であり、4年前からチタン系を手始めにそれまで外注で出していた加工処理を内製化していき、現在では前述したチタン、スーパーアロイの加工処理設備も充実しており100%内製化できているという。社内でチタン、スーパーアロイの加工処理を施すことでスクラップ原料の付加価値を上げている。



（こうしたチタンパイプも破碎機に投入され原料化に）



これについて山頼社長は

「4年前からはじめた高付加価値戦略がここにきてようやく実ってきた。今期（2017年度＝2017年3月～2018年2月）はニッケル、コバルト、チタンはじめ、当社が扱うレアメタル系の相場が上昇したこともあり、売上、利益ともに前期比プラスになることは間違いないが、特に収益率は伸びている。例えば今年（2017年度）は2014年同期と比べてニッケルなどの相場水準は低いが、利益率は今期のほうが良い。これは、スーパーアロイ、チタンの高付加価値戦略が実ってきたこと、国内外のユーザーに販路を持てるようになったことが主因」だという。



ここ2年は厳しい状況が続いてきたメタルドゥだったが、その厳しい環境のなかで利益体質への改善を図ってきたことが今日結実している。かねてより山頼社長が提唱していた「量から質への転換」が具現化しており、レアメタルリサイクルプロセッサーとしてのポジションを固めつつある。

チタン同様にスーパーアロイも高付加価値化を追求しており、1st物流センターのスーパーアロイプロセッシングヤードには研磨機、アリゲーターシャー、ショットブラストマシンが設置されており、スーパーアロイ原料を生産している。

ここでは月間平均数十トンのスーパーアロイ原料を生産し、やはり国内外のユーザーに販売している。スーパーアロイは航空機関係、電力関係のタービンブレードなど様々なスーパーアロイスクラップを取り扱っている。



(ニッケル水素電池)



(車載用のリチウムイオン電池)

1stではリチウムイオン電池、ニッケル水素電池の工場発生スクラップも扱っている。リチウムイオン電池は車載用の電池もここで扱っており、大手電池メーカーのものを中心に月間平均で100~150トンを扱っている。うちリチウムイオン電池が9割、ニッケル水素電池が1割という。リチウムイオン電池の扱いでいえば国内屈指の扱い量であろう。このリチウムイオン電池も生産増に伴って発生量も増加の一途をたどっており、メタルドゥにとって重要な商材として期待されている。もともと電池スクラップに強いメタルドゥであったため、こちらの電池扱いにも力を入れている。

(IRUNIVERSE Y.Tanamachi)